

## 2 ロボット支援下前立腺全摘後の 難治性会陰部痛に対して漢方薬が 奏効した1例

京都大学大学院医学研究科 泌尿器科

井上 貴博

70代男性。2年3ヶ月前にcT1cN0M0、iPSA 5.63ng/ml、Gleason score (Gs) 3+4の中間リスク前立腺癌に対して後腹膜アプローチのロボット支援下前立腺全摘(RALP)(左勃起神経温存)を施行した。術後病理はpT2aNx RM0 Gs 3+4であった。術後経過は問題なかった。術後3ヶ月目より柔らかい椅子に座るときの会陰部痛を認めた。会陰部痛精査目的で膀胱鏡を施行したところ術後9ヶ月目に小さな表在性膀胱腫瘍を認めTURBtを施行しているがその後も疼痛は持続した。そのときのMRIでは疼痛の原因となる異常は認めなかった。リリカ25mg内服でも疼痛軽減無かったので、当院ペインクリニックに紹介した。トリプタノール10mgの処方でも軽度会陰部痛は緩和されるも痛みは持続した。その後トリプタノール10mgに加えリリカ25mgを併用し、術後22ヶ月目に五苓散7.5g/日を当科で処方した。約2ヶ月内服するも疼痛は軽減しなかった。下半身の痛みの軽減を期待して五苓散の代わりに麻杏薏甘湯7.5g/日と防己黄耆湯7.5g/日を2週間併用処方したが効果を認めなかった。そこで牛車腎気丸7.5g/日を処方したところ1ヶ月後の外来で会陰部痛は顕著に軽減されているのを確認し、現在継続して処方している。前立腺癌に対する前立腺全摘後の痛みは会陰式前立腺全摘で恥骨上式前立腺全摘に比べより問題であるとの報告もあるが(Kowalczyk K J Urol 2011)、RALP術後の会陰部痛の詳細は不明である。本症例でも用いた非吸収性のポリマー製クリップが原因でRALP後の会陰部痛が持続し、ステロイドの局所注射が奏効した症例報告(Creta M Aech Ital Urol Androl 2017)がある。本症例では膀胱尿道吻合部近傍にはポリマー製クリップは見当たらずそれが原因とは考えにくい。牛車腎気丸は中高齢者の泌尿器症状に用いられ、下半身の疼痛に有用性が示されている。本剤は先に使った3剤とは異なり附子を含んでおりこれが疼痛軽減に有効であったと推察する。